

## 2017 京都クラウンレディース本選 及び プロアマチャリティー大会 《競技の主な条件》

期日：平成29年7月2日

開場：太閤垣カントリークラブ

京都クラウンレディース実行委員会

### 1) ゴルフ規則

日本ゴルフ協会ゴルフ規則とこの競技のローカルルールを適用する

### 2) 競技委員会の裁定

競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、この委員会の裁定は最終である

### 3) 競技終了時点

本競技は、競技委員会の作成した成績表が提示された時点をもって終了とみなすが、荒天の場合は9ホール終了をもって競技成立とし、首位が同スコアの場合は競技委員会が適時判断する

### 4) プレー中断と再開

① プレーの中断については、ゴルフ規則6-8 b,c,dに従って処置すること

② プレーの中断と再開の合図

【中断】一回の長いサイレンと カート無線

【プレー再開】カート無線

### 5) 移動 [ カートの使用 ]

競技者は正規のラウンド中、各パッティンググリーンから次のティーグラウンドまでの移動を含み、常にカートを使用することができる

### 6) 練習ストローク、スタートホールティーショットから最終ホール、ホールアウトまでの練習ストロークの禁止(2打罰)

### 7) プレーオフ

① 京都クラウンレディース本選

トップが複数で同スコアの場合は1番ホールで一度だけプレーオフをおこなう。それでも決着がつかない場合は元スコアの18番ホールからのカウントバック(スタートホールの違いに関係なく)にて優勝者を決定する。

② プロアマチャリティー大会

18番ホールからのカウントバック(スタートホールの違いに関係なく)にて優勝チームを決定する。

### 8) 距離測定器の使用

プロアマ本選同時進行のため、距離測定器は、プロアマ共使用可能とする(プレーオフ時も同様)

### 9) ティーグラウンド

プロおよび一般アマチュアはコンペティションティーを使用するものとするが、シニア(70歳以上)はゴールドティー、レディースは赤色ティーを適時選択することができる

### 10) ボール選択及び打順

① プロはすべてのプレーにおいてオンリープロのボールだけしか打てない

② ティーショットはプロが必ず最初に打つ。2番目以降のアマの打順については自由

③ アマはベストボール(プロのボールを選択できる)。プロのボールを選択する場合は必ずプロが先に打つ

④ セカンドショット以降は、選択したボールをマークし、その直近かつグリーンに近づかない位置からショットを行うものとする

### 11) ボール選択及び打順 [ グリーン上 (カラーは含まない) ]

① グリーン上においては、アマのボール選択およびカップまでの残り距離等に関係なく、プロがカップインするまでプレーを続けそのあとアマだけのベストボール方式でプレーする。

② プロのセカンドパット以降は、ベストボールの選択はできない。

③ グリーン上においては、選択したボールをマークし、その直近かつカップに近づかない位置からパッティングを行うものとする

### 12) ルール等の指導及びアテスト [ クラブハウス内部の指定エリア ]

各プロはスコアカードの記入、提出に加え、競技ルール等をアマチュアに伝え、責任をもって指導すること

① プロは本人のスコアのみをピンクのアテスト用紙に記入[アマチュア1名のアテスト必要]

② アマチュア代表者はチームのスコアのみを白色のアテスト用紙に記入[プロのアテスト必要]

### 13) その他

荒天等により18ホール未消化に終わった場合は、競技委員会が適時判断する

## ローカルルール

### 1. 限界表示等

- ①アウトオブバウンズの境界は白杭をもって表示する
- ②修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を表示する
- ③ラテラルウォーターハザードは赤杭をもってその限界を表示する
- ④排水溝は動かさない障害物とする
- ⑤カート道路(縁石を含む)は動かさない障害物とする

### 2.バンカー内の石は動かせる障害物とする

3. 1番ホールと7番ホールの赤杭の処置・目的ホールのラインを越えた場合、現にプレーするホールに平行移動し1ペナルティを付加し、2クラブレングス以内にドロップしプレーすること

### 注意事項

1. 予備グリーンは定義上「目的外のパッティンググリーン」であり、球が目的外のパッティンググリーン上にある場合、競技者は規則25-3に基づいて救済を受けなければならない

※規則25-3：プレイヤーの球が目的外のパッティンググリーン上にある場合、プレイヤーは罰なしに、次の救済を受けなければならない。プレイヤーのスタンスや意図するスイングの区域が妨げられても、それだけでは規則25-3にいう障害には当たらない

- a) 救済のエリアは、イントより1クラブレングス以内で、b) 救済のエリアは、イントよりもホールに近づかない所にドロップしなければならない。規則25-3により拾いあげた場合、球はふくことができる

2. 練習は指定練習場で行い、打球練習場では備え付けの球を使用し、スタート前の練習は1人1箱を限度とする。

なお、打球練習場での使用クラブは飛距離150ヤード以下のものに限る

競技委員長 山中 真知子